丸ノ内線車両略年表

車両に関する主な出来事（形式別車両推移）

西暦	和暦	車両に関する主な出来事（形式別車両推移）
1925	大正14	
1927	昭和2	
1928	昭和3	
1929	昭和4	小石川車両電車庫準備事務所発足
1952	昭和27	小石川車庫拡張工事完成
1953	昭和28	
1954	昭和29	小石川車両工場発足 300形車両運転開始
1955	昭和30	
1956	昭和31	小石川車庫拡張工事完成
1957	昭和32	
1958	昭和33	小石川工場に車輪転削盤設置 300形車両客室をロングシート化
1959	昭和34	車内放送装置取付（S35完了）
1960	昭和35	
1961	昭和36	
1962	昭和37	中野検車区発足（検車庫完成）
1963	昭和38	中野工場発足（車輪転削盤等設置）
1964	昭和39	小石川工場完成・留置線下に車両工場を設ける
1965	昭和40	100形車両が銀座線から分岐線用に10両転属
1966	昭和41	
1967	昭和42	車両の方向標識灯使用中止（S40完了）
1968	昭和43	荷棚取付（一部取付を座席上部全面取付とした S44完了） 全周貫通幌取付工事開始（S44完了）
1969	昭和44	車両の更新工事開始
1970	昭和45	車両の更新工事（C修）開始
1971	昭和46	中野検車区でポイントの構内集中制御連動装置を使用開始
1972	昭和47	車両側引戸ガラスを強化ガラスに取替え・ 車両戸吊り装置を戸車式に変更
1973	昭和48	不燃工事（主抵抗器に遮熱板取付、座席布団難燃化）
1974	昭和49	制御回路の改修、水抜管に防水板取付、非常表示名盤取付）
1975	昭和50	分岐線で100形車両が引退し、2000形車両が銀座線から10両転属
1976	昭和51	・蛍光灯具：グローブを撤去し反射板取付（S49完了）
1977	昭和52	車両リコ式吊手を吊輪式に変更（S48完了）
1978	昭和53	営団の紋章を制定（Sマーク）
1979	昭和54	4号線新宿以西を「荻窪線」、2号線を「日比谷線」と呼称決定
1980	昭和55	保安ブレーキ装置取付
1981	昭和56	車両誘導無線平行二線化に伴う改良（S55完了）
1982	昭和57	車両台車取替（FS-301、KD-21、OK-16をFS349A台車へ S58完了）
1983		車両先頭車乗務員質艙装修理工事開始
1984	昭和59	車両更新工事（新B修）開始
1985	昭和60	車両先行方表示器改良工事開始（S62完了）
1986	昭和61	車両側引戸位置表示用銘板を貼付
1987	昭和62	車両先頭車用表示灯及び非常報知表示灯を車側に取付
1988	昭和63	車両に過負荷（OLR）表示灯及び非常報知表示灯を車側に取付
1989	平成元	全線各列車（両先頭車）に2か所「シルバーシート」を設置
1990	平成2	全線車両運転士背面窓に漏光防止処理
1991	平成3	全線車両運転士背面窓に漏光防止処理
1992	平成4	営団創立50周年記念で02系ラッピング電車運転
1993	平成5	冷房車登場
1994	平成6	900形車両の営業運転終了
1995	平成7	300、500形車両の営業運転終了
1996	平成8	中野検車区にて自動入替試験実施 振動データ測定装置を設置
1997	平成9	1113両をアルゼンチンへ譲渡
1998	平成10	新CS-ATC化
1999	平成11	シルバーシートの名称を「優先席」に変更
2000	平成12	TASC運転開始
2001	平成13	中野車両基地から地下鉄博物館へ移設
2002	平成14	301号車を中野車両基地から地下鉄博物館へ移設
2003	平成15	分岐線TASC運転開始
2004	平成16	全線車両冷房100%完了
2005		全車両にシルバーシートを設置
2006	平成18	分岐線車両18両をアルゼンチンへ譲渡
2007	平成19	分岐線で500形車両から02系車両に置き換え
2008	平成20	中野坂上～方南町間において自動入替試験実施
2009	平成21	02系（19編成114両）大規模改修工事開始
2010	平成22	1線1区化（小石川検車区・中野検車区小石川分室） サインウェーブが復活した車両の運転開始（リニューアルが完了した編成から順次）
2011	平成23	全編成VVVF化完了
2014	平成26	「無線式列車制御システム（CBTCシステム）」の導入を発表
2016	平成28	一部車両が里帰り 500形車両アルゼンチンから鉄道技術の発展に貢献した車両として保存するため
2017	平成29	丸ノ内線2000系車両運転開始
2019	平成31	2000系車両「令和元年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞
2020	令和2	2000系車両「2019年度省エネ大賞経済産業大臣賞」を受賞
2021	令和3	02系車両をフィリピンFEATI大学に無償譲渡 分岐線用02系車両運転終了
2022	令和4	
2023	令和5	
2024	令和6	

丸ノ内線に関する主な出来事

西暦	丸ノ内線に関する主な出来事
1925	東京都市計画高速度交通機関路線網5路線82.4キロ告示（内務省告示第56号）
1927	東京高速鉄道四ツ谷～赤坂見附間免許取得
1937	帝都高速度交通営団設立
1941	赤坂見附～弁慶濠間着工
1942	赤坂見附～弁慶濠間工事中止
1944	東京復興院設置
1945	戦災復興都市計画高速鉄道網5路線101.6キロ告示（戦災復興院告示第252号）
1946	東京復興都市計画高速鉄道5路線101.6キロ告示（戦災復興院告示第252号）
1949	池袋～神田間新線建設計画決定
1951	池袋～神田間起工式挙行
1952	営団法一部改正（民間資本排除、管理委員会設置）
1953	池袋～新宿間の土木工事に着手
1954	建設計画　池袋～神田間を池袋～御茶ノ水間に変更
1955	営団路線名称正式決定（浅草～渋谷間を「銀座線」、池袋～新宿間を「丸ノ内線」）
1956	Sマーク登場
1957	池袋～御茶ノ水間開通
1958	御茶ノ水～淡路町間開通・淡路町～東京間開通
1959	朝混雑時4両、その他3両編成の運転となる
1960	東京～西銀座（現：銀座）間開通
1961	西銀座（現：銀座）～霞ケ関間開通
1962	霞ケ関～新宿間開通（池袋～新宿間全線開通）
1963	国会議事堂前駅に営団設立後初めてのエスカレーター設置
1964	丸ノ内線で日比谷線用ATC公開試験運転実施
1965	営団の紋章を制定（Sマーク）
1966	4号線新宿以西を「荻窪線」、2号線を「日比谷線」と呼称決定
1967	荻窪線の名称を廃止、「丸ノ内線」に統一
1968	トンネル冷房、駅冷房設置開始
1969	大晦日終夜運転を初めて実施
1970	朝混雑時のみ5両編成の運転となる
1971	新宿～新中野間及び中野坂上～中野富士見町間開通
1972	新中野～南阿佐ケ谷～荻窪間開通
1973	南阿佐ケ谷～荻窪間開通
1974	一部6両編成の運転となる
1975	中野富士見町～方南町間開通
1976	東高円寺駅開業
1977	終日6両編成の運転となる
1978	定期券発行機導入（中野坂上駅）
1979	自動改札機使用開始（中野坂上駅）
1980	防振まくらぎ・防振マット施工開始
1981	霞ケ関駅ホーム新設（2面2線）
1982	分岐線2両編成を3両編成とする
1983	
1984	全駅構内で終日禁煙実施
1985	
1986	駅のホーム監視用テレビを設置（国会議事堂前駅）
1987	池袋駅でラッシュ時の禁煙運動開始
1988	朝ラッシュ時1分50秒運転
1989	誘導無線装置完成
1990	
1991	
1992	全線各駅車掌手笛吹鳴省略
1993	
1994	後楽園駅ビル「メトロ・エム後楽園」オープン
1995	
1996	西新宿駅開業
1997	トンネル中柱、高架橋耐震補強開始（中野富士見町駅、霞ケ関駅、小石川車両基地）
1998	CS-ATC化に伴う速度向上により池袋～荻窪間所要時間3分短縮
1999	中野坂上～方南町間所要時間1分短縮
2000	エレベーター、エスカレーター等垂直移動設備設置開始
2001	
2002	
2003	東京地下鉄株式会社設立
2004	可動ステップ稼働開始（中野新橋駅・中野富士見町駅）
2005	ホーム下稼働開始（中野坂上駅～方南町駅）
2006	「駅ナンバリング」を開始
2007	ホームドア稼働開始（池袋駅～荻窪駅）
2008	中野坂上～方南町間においてワンマン運転開始（3両編成の列車のみ）
2009	主要6駅ホームでデジタルサイネージ「Station Vision」による
2010	広告配信開始（東京駅、銀座駅、赤坂見附駅、新宿三丁目駅、新宿駅、中野坂上駅）
2011	丸ノ内線全線ワンマン運転開始
2012	
2013	
2014	
2015	
2016	
2017	
2018	
2019	方南町駅ホーム6両化に伴い池袋～方南町駅間の直通運転を開始
2020	
2021	
2022	
2023	丸ノ内線御茶ノ水駅出入口上家、御茶ノ水橋りょうおよび
2024	四ツ谷駅こ線橋が登録有形文化財に登録

丸ノ内線呼称

～1952（昭和27）年　**4号線**

1960（昭和35）～1972（昭和47）年　4号線新宿以西を**荻窪線**